



第18回 サマーキャンプ 中学生の翼 帰国報告

団長(教育課長) 先崎 幸雄

サマーキャンプ「中学生の翼」は、中学2年生の団員14人(男子8人、女子6人)、引率者3人(団長、指導員2人)で、7月27日から8月5日までの10日間で実施されました。当町と交流の深いアメリカ合衆国ニュージャージー州グレンロック町で5日間のホームステイ、その後ニューヨーク州ハンコック町ヒルトップキャンプ場で3日間のキャンプステイで研修を行ってきました。

この事業は、国際化時代に対応するため、中学生を海外に派遣することにより、体験などを通して広い心、自由・自立と公共の精神を培う目的で実施している事業です。これまで18回実施され、多くの方々に参加し、それぞれの立場で成果が得られていると思います。

今年度は3月11日に発生した東日本大震災のため、実施にあたってはグレンロック町との情報収集と慎重な協議を重ね、計画通り実施したものです。

日付ごとに活動内容を報告します。

■7月27日(水)

多目的研修集会施設において、町長、教育長、保護者など

により出発式を行い、成田空港からアメリカへ出発しました。

■(アメリカ時間)7月27日(水)

ニュージャージー州ニューアーク空港に予定通り無事到着しました。13時間の長旅です。緊張の入国審査を無事クリアし、初めて見る光景に団員たちは感激した様子でした。クリスティンさんの出迎えに地元紙のカメラマンも同行し、いきなりフラッシュの連発、突然のインタビューなどの取材にみんな驚いていました。その後、バスでグレンロック町へ移動しました。

歓迎会では、カレン町長をはじめ、議員の方々、ホストファミリーの皆さんが集まってくれました。初めに町長から歓迎の挨拶があり、特別に町、議会を挙げての歓迎を受けました。町長からは「本日から3日までこの町をWest Onomachiの日に決定する」との発表があり、会場から大きな拍手がわき上がりました。ホストファミリーに団員が紹介され、対面して交流の場となりました。

私は夜間議会で、緊張の中、お礼の挨拶を述べてきました。

団員たちは少しずつ家族に溶け込んだ様子で、いよいよホームステイの始まりです。